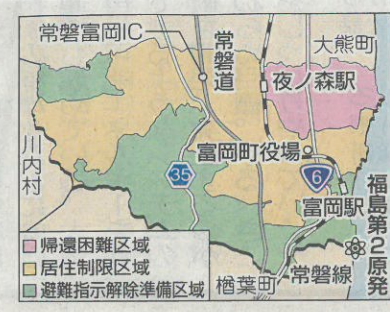


# 17年4月帰還開始

## 富岡町長、目標示す

原発事故で全町避難が続く富岡町の宮本皓一町長は



1日、帰還困難区域を除く一部地域で、早ければ2年後の2017（平成29）年4月にも住民が帰還を始めるよう復旧・復興を進める方針を示した。同日、郡山市の町郡山事務所での訓示で述べた。

【2面に関連記事】町は17年3月までは「帰還できない」と宣言してい

たが、除染や公共施設の整備、商業、医療機関などの生活関連サービスの復旧を進めることで帰還を目指す。町議会や住民説明会での協議などを経て、あらためて帰還時期を判断する。JR富岡駅北西部にあり、町が復興拠点と位置付けている曲田・岡内地区を中心に、公共施設などを集約す

るとみられる。

「職員一丸で取り組む」  
宮本町長は訓示で「一人でも多くの町民が戻る事ができるよう、町内の再生復興を職員一丸で取り組んでいく必要がある」と職員に協力を呼び掛けた。

# 分かれる町民の声

## 17年4月の帰還開始目標

### 富岡町第3の選択肢示す

富岡町の宮本皓一町長が1日に示した2017（平成29）年4月の帰還目標。町民からは「帰還時期が示されたのは良いこと」「安全、安心には帰れない」などさまざまな声上がる。【1面に本記】

帰還目標について、郡山市の仮設住宅で暮らす北崎一六さん（67）は「帰りたいと思っている人にとって時期が示されたことは気持ちの上で目標になる」と歓迎。同市の借り上げ住宅に入居する橋本昇さん（63）は先月、同町仏浜、毛萱両地区に完成した仮設焼却施設に触れ「（同施設が）残っていると帰還しにくい」と話す。同施設は18年に解体予定だが、橋本さんは施設が

生活環境に影響すると不安視する。

町は、現在策定を進めている第2次町災害復興計画の基本理念に「あらゆる町民の意向を尊重する」と掲げる。帰還する、しないの二者択一ではなく第3の選択肢として「長期待避・将来帰還」を提示し、町民が納得して判断できるように体制の構築を目指している。

宮本町長は「復興を目に見える形で具現化したい」と話す。帰還の鍵を握るのは除染。同町の除染は2017（平成29）年3月までに完了する予定だが、実現できるかどうか、また、実施しても低減できるかは不透明だ。